

# かながわ移動観光大学

～かながわ観光大学推進協議会による大学と神奈川県との連携～

神奈川県商工労働局産業部観光課

## ◆ かながわ観光大学推進協議会

観光立県に向けた取組みを進めている神奈川県では、平成22年4月に観光系の学部学科がある松蔭大学、文教大学、横浜商科大学で構成する「かながわ観光大学推進協議会」を設置しました(平成23年4月より東海大学も加わり4校となりました)。この協議会では、連携協定に基づき、観光分野における「学・公・産」連携事業を推進し、神奈川県における観光分野の人材育成、観光をとおした地域の振興と観光産業の振興に寄与することを目的としています。

### かながわ観光大学推進協議会における取組み事項

1. 観光分野における、人材育成事業の実施
2. 観光振興に関わる行政情報及び観光分野の調査研究に関する情報の共有
3. 県施策の実施、及び大学における調査研究の実施
4. その他関連必要事項の実施

## ◆ かながわ移動観光大学の内容

かながわ観光大学推進協議会に参加する三大学は県内各地において、観光分野の人材育成を目的として、観光関係者、観光をとおしたまちづくりや観光ビジネスに興味がある県民・学生などを対象に「かながわ移動観光大学」を開講しました。

### (1) 湘南キャンパス (文教大学)

#### ① 開講テーマ

「自然と人を磨く観光まちづくりから発信へ」

#### ② 開催日

平成22年10月2日 文教大学湘南キャンパス

10月3日 熊澤酒造株式会社

#### ③ 内容 (カリキュラム)

- ・湘南地域の自然について学ぶ
- ・湘南地域の海の魅力について学ぶ
- ・湘南地域の観光史を理解する
- ・パネルディスカッション「観光まちづくりー湘南地域にみる可能性について」
- ・現地視察「里山eat&meet in茅ヶ崎」



湘南キャンパスでの活動

(2) 厚木キャンパス (松蔭大学)

① 開講テーマ「食による観光まちづくり～観光地域振興を例に食を活かした観光地域づくりを考える～」

② 開催日

平成22年11月20日、27日 松蔭大学本厚木ステーションキャンパス

③ 内容 (カリキュラム)

- ・厚木市における食のまちづくり
- ・B-1 グランプリ結果報告
- ・B級グルメと観光振興
- ・食を活かした商業振興と観光地づくり
- ・郷土料理と観光振興 (加賀市における食と観光振興)
- ・かながわの食を活かした観光振興の課題と方向
- ・シンポジウム「食の多様性を活かした観光振興」



厚木キャンパスでの活動

(3) 箱根キャンパス (横浜商科大学)

① 開講テーマ「宿泊産業のイノベーションと観光まちづくり」

② 開催日 平成22年11月17日、24日 箱根町役場

③ 内容 (カリキュラム)

- ・観光まちづくりと宿泊産業

- ・温泉観光地の今後のあり方とホテル・旅館
- ・温泉観光地におけるホテル・旅館の経営課題
- ・宿泊産業におけるイノベーション
- ・宿泊ホスピタリティ産業における人材育成
- ・リゾートホテルのマネジメントとサービス
- ・中国人市場への対応と受け入れ課題
- ・ワークショップ「箱根町の宿泊産業の課題」



箱根キャンパスでの活動

◆ かながわ観光大学シンポジウム

かながわ観光大学推進協議会が平成22年度取り組んだ「かながわ移動観光大学」の事業報告や「観光立県かながわ」を担う人材の育成について専門家や関係者によるパネルディスカッションを実施しました。

(1) 開催日 平成23年3月10日

(2) 内容

① かながわ観光大学推進協議会平成22年度事業報告

② かながわ観光大学推進協議会平成23年度事業計画案内

③ パネルディスカッション

『観光立県かながわの展望—「観光立県かながわを担う人材の育成—』

## パネリスト

- ・李宏道 (株)ローズホテルインターナショナル代表取締役社長
- ・布留川信行 (株)横浜八景島取締役社長
- ・村上正司 (財)箱根町観光協会専務理事
- ・西牧秀夫 国土交通省関東運輸局企画観光部計画調整官

## コーディネーター

- ・羽田耕治 横浜商科大学商学部貿易・観光学科教授

## パネリストからは、

- ・大学が観光産業と連携して教育メニューをつくること
- ・実務経験者を大学へ戻すことの重要性
- ・地域をあげて人材育成をすることの重要性
- ・インターンシップ制度の整備の必要性
- ・観光産業に携わる人材は、感性、好奇心が必要であること
- ・現状は人材育成を行う主体の資金や体制が不足していること
- ・人材育成の重要性を共有する組織が連携して、運営基盤の強化を図り、目的に即した、地域のニーズにマッチした人材育成・活用を計画的に行うことが必要であること

などの意見が出ました。



シンポジウムの状況

## ◆ 大学と連携することによる効果

少子高齢化が進展し、人口減少社会の到来が現実のものとなる中、交流人口の増加に資する観光への期待が高まっています。神奈川県では観光を通じて活力の向上を図る観光立県かながわの実現に向けて、「魅力ある観光地の形成」、「神奈川の魅力を伝える広報宣伝の充実」、「観光の振興による地域経済の活力の向上」、「観光旅行者を迎える体制の整備」、「外国人観光旅客の来訪の促進」の五つの体系のもと、県をあげて推進しています。

その中で、観光系の学部学科がある大学の知を活用し、地域のホスピタリティの向上、経営ノウハウの獲得、さらには観光サービスの高度化を促すことで、地域を訪れるリピーターを増やし、誘客の増加が期待できます。

## ◆ 今後の取り組みへの課題と方向性

平成22年度の移動観光大学は、参加者の感想は概ね好意的で、今後も参加したいという回答が多数であり開催の意義は大きいものでした。

またシンポジウムのパネルディスカッションにおいては、様々な分野の関係者から今後の観光人材育成のための示唆に富んだ意見がいただきました。

今後は開催地域のニーズに応じてプログラムを構成し、地域で必要とされる観光人材の育成を通じて、地域の観光振興に貢献していきます。

また、かながわ移動観光大学以外にも、多様な主体との連携や、若手人材の交流促進等に取り組み、「観光立県かながわ」にふさわしい質の高い人材の育成に努めていきたいと考えています。